

# 水稻奨励品種 ‘つや姫’ および ‘にこまる’ の収穫適期

～ 収穫が遅れると品質が低下 ～

## 1. はじめに

‘つや姫’は極早生の良食味品種で、‘にこまる’は晩生の良食味品種である。

これらは高温耐性に優れた品質の良い品種として2017年2月に和歌山県水稻奨励品種に採用され、県内での適切な栽培技術の開発が求められている。

ここでは刈取り時期と収量や品質との関係について調査し、収穫適期を検討した。

## 2. 材料および方法

‘つや姫’および‘にこまる’を供試し、2018年6月5日に条間30cm、株間18cmで機械移植した。基肥は2018年5月30日に窒素成分8kg/10aとなるように全量基肥施用した。‘つや姫’は出穂後28日(9月3日)より出穂後50日(9月25日)まで、‘にこまる’は出穂後32日(9月28日)より出穂後64日(10月30日)まで、3から4日間隔で刈取りを行った。調査は1区50株の2反復とした。

## 3. 結果

### 1) ‘つや姫’

出穂後32日までの刈取りでは屑米重が重く精玄米重が軽かった。出穂後32日から46日の刈取りでは精玄米重は重かった(表1)。

出穂後28日の刈取りでは青未熟粒などの未熟粒率、死米率が高く、32日までは青未熟粒などの未熟粒率が高く、整粒率が低かった。出穂後36日から43日の刈取りでは整粒率は高く、品質が優れた。出穂後46日以降の刈取りでは胴割粒率が高く、整粒率が低下した(表1)。

### 2) ‘にこまる’

出穂後32日の刈取りでは屑米重が重かった。また、精玄米重と刈取り時期との関係は判然としなかった(表2)。

出穂後32日の刈取りでは青未熟粒などの未熟粒率、死米率が高かったが、出穂後36日以降の刈取りで減少した。また、出穂後50日以降の刈取りでは、乳白粒などの未熟粒率、胴割粒率が増加し、整粒率が低下した。この傾向は、出穂後57日以降で顕著であった。出穂後36から46日の刈取りでは整粒率が高く、品質が優れた(表2)。

表1 刈取り時期が‘つや姫’の精玄米重、玄米品質に及ぼす影響

刈取り時期 (出穂後日数) (日)	積算温度 (°C)	精玄米重 (kg/10a)	屑米重 (kg/10a)	品質				
				整粒率 (%)	未熟粒率 (%)	胴割粒率 (%)	死米率 (%)	
28	801	532	39.6	61.2	35.8	0.4	1.3	
32	903	578	25.3	64.7	33.1	0.4	0.7	
収穫 適期	36	995	580	22.3	68.3	29.8	0.4	0.3
	39	1064	587	20.2	69.1	29.2	0.2	0.3
	43	1165	599	20.3	69.3	28.3	0.6	0.4
	46	1233	579	17.3	65.2	32.2	1.0	0.4
50	1323	566	16.3	66.2	29.7	2.1	0.3	

出穂日:8月6日  
外観品質は穀粒判別器(静岡製機ES-1000)で測定。

表2 刈取り時期が‘にこまる’の精玄米重、玄米品質に及ぼす影響

刈取り時期 (出穂後日数) (日)	積算温度 (°C)	精玄米重 (kg/10a)	屑米重 (kg/10a)	品質				
				整粒率 (%)	未熟粒率 (%)	胴割粒率 (%)	死米率 (%)	
32	794	510	25.6	55.2	39.2	0.1	3.6	
収 穫 適 期	36	875	490	19.0	75.2	23.0	0.1	0.8
	39	935	539	22.4	71.8	26.2	0.2	0.7
	43	1027	491	19.3	74.2	23.6	0.3	0.5
	46	1081	467	17.4	72.6	25.2	0.3	0.6
	50	1150	511	17.9	70.2	27.5	0.4	0.7
	53	1200	515	15.7	70.0	27.6	0.2	0.8
	57	1260	524	20.2	67.8	29.4	0.4	0.8
	60	1308	532	17.6	67.7	29.1	0.6	0.6
64	1365	504	20.3	68.4	28.1	0.9	0.6	

出穂日:8月27日  
外観品質は穀粒判別器(静岡製機ES-1000)で測定。

## 4. まとめ

6月5日移植の場合、‘つや姫’の収穫適期は、収量と品質ともに優れる出穂後36日から43日の間と考えられ、その時の積算温度は995℃から1,165℃であった。‘にこまる’の収穫適期は、品質面から出穂後36日から46日の間と考えられ、積算温度は875℃から1,081℃であった。

(栽培部 岩橋良典)